

東京東彼杵會の成立及發展

西田卯八氏 昭和三十年十一月 (原文のまま)

東京に来た彼杵の学生は明治の二十五年頃よりであると思われるが略ぼ一人或は二人と云う程度であつた。明治二十一年辻忠治君が来たのは比の頃新しく起つた時代のよ
うに思われる。

次いで明治三十二年に西田卯八が来たが一旦帰郷し全三十三年より三十五年迄居り
辻忠治君は三十七年頃迄居つた様である。比の頃は會を作る程の人が居なかつた。明治
四十二年より私は出直しのために東京に着たが其の頃より中尾方一、島津良能、山口尚
章、岩永藤樹、辻知一の諸君が上京したので明治四十三年の秋であつたが市川市で以上
の五人と私と六人で会したのが東京彼杵會の第一回であつた。

此の時の寫眞は全く思ひ出となつて居る。私はこれより東京に居たが大学を卒業した
人は多く地方に行った。大正四年に神田錦町で彼杵會を開いた時は長岡隆一郎、長岡安
平、岩永藤樹、西田京造、佐藤秀雄、西田卯八等六人程度であつたと思われる。大正六
年五月彼杵村長 福田有信氏加代子婦人の兩人赤十字會と愛國婦人會の總會に上京さ
れ彼杵出身者十六人にて歓迎會を神田で開いたのは盛會であつた。此の後大正時代はあ
まり盛況ではなかつたが会する者は西田、辻(圭一)、佐藤、森山、辻(英雄)、岡田等の
諸君であつたと思われる。

昭和時代に入り森英示、中尾方一の両氏が上京され更に辻五郎君が上京となつたので
大に盛況を呈した様である。尚お昭和五年頃北大總長南鷹次郎氏を新宿玉亭に於て歓迎
したこともあつたが此の時は七、八人集まつたと思ふ。

福田村長の後に村長となつた中島榮君も度々上京され歓迎したことがある。現在の彼
杵町長山口前能君の歓迎會も數回やりました。昭和二十八年三月に西田卯八学位祝賀會
を新宿中村屋に開き会する者十三人、昭和二十九年九月彼杵町會議員を中心とし夫人等
三十人上京され雅叙園で歓迎會を開き盛會であつた。昭和三十年六月森英示氏の藍綬褒
章祝賀會を開き会する者九人であつた。

以上